変わる学びのカタチ
～タブレット端末を活用した授業～

問合せ　教育委員会指導課　内線 657

一人一台タブレット端末導入

令和3年4月から、市内の公立小・中学校の児童生徒一人ひとりに専用のタブレット端末を活用した授業が始まりました。これにより、今まで以上に多様な授業を展開することが期待できます。

今号では、久慈小学校2年1組でのタブレット端末を活用した授業の様子を取材しました。

導入の効果

①個々に合わせた授業ができる

子どもたちが自分専用のタブレット端末を使用するため、理解度に応じた教材の配信やサポートができ、学習状況に合わせたきめ細かい指導が可能になります。

②双方向のコミュニケーション

子どもたちが互いの考えをリアルタイムで共有でき、多くの考えに触れることができるので、活発な意見交換が期待できます。また、子どもたちだけでなく、先生とのコミュニケーションも行えるので、先生は、一人ひとりの反応を確認しながら授業を進めることができます。

③休校時でも学習が充実

台風や大雨、感染症などによって学校が臨時的に休校となっても、家庭での学習を充実させることができます。

市の取組

市ではタブレット端末を活用した授業の開始に合わせ、教員が授業でタブレット端末を効果的に使用できるようにＩＣＴ支援員を配置し、これまで以上に多様な学びのカタチによる授業に取り組んでいます。

【コラム】１人１台タブレット端末導入の背景

令和元年 12 月、文部科学省が GIGA スクール構想という施策を発表しました。

この施策は、これからを生きる子どもたちのために、１人１台のタブレット端末などの ICT 環境を整備し、これまでの教育実績と ICT を融合することで、子どもたちの資質･能力の一層の向上を図り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指すものです。

授業の様子

道徳

子どもたち一人ひとりが自分の気持ちや考えをタブレット端末に入力し、大型モニターにみんなの考えを映し出しました。従来の一斉型の授業では、手を挙げた子が回答や意見を発表していましたが、タブレット端末の活用で、すべての子どもの意見を即時に共有することができ、考えを深めることができます。

自分の考えを入力

大型モニターで表示

みんながどう思ったか
一目瞭然！

ICT 支援員は授業中のサポートを行うほか、先生たち向けに研修を行い、タブレット端末を授業にどのように活かせるか提案を行います。

子どもたちには、コンピュータは便利な反面、使い方を間違えると危険も伴うということを、きちんと伝えるようにしたいと思っています。

ICT 支援員
中川　奈美希さん

図工

子どもたちがタブレット端末を使って「たまご」の絵を描き、その絵をスクラッチ*というアプリでプログラミングして動かしてみました。どういうプログラムを組めば自分の思い通りに動くかを視覚的に確認しながら、何度も試すことができるので、これまで以上に主体的に課題に取り組んだり、みんなと教え合うことで新たな気づきが生まれます。

スクラッチの授業で、キャラクターを動かしたり、色や背景を変えたりするのが楽しいです。友達に聞くことで発見もあるし、友達に説明してすごいと言われると嬉しいです。

久慈小学校 ２年１組
辻　統也さん

スクラッチで絵を動かす

楽しみながら学べる

積極的に取り組んでいます！

＊スクラッチとは…プログラムでキャラクターを動かすアプリです。
何をしたらどうなるというプログラミング的思考（考える力）を養うことができます。

児童一人ひとりの学習スピードに差がある中で、タブレット端末を活用することにより、それぞれのレベルに応じて、豊富なコンテンツの中から選択して学習させることができるので、これまでよりきめ細やかな指導が可能になったと感じています。子どもたちには、今後の ICT の進化などに応じて、新しいことにどんどん挑戦して欲しいです。そのためにも、まずはタブレット端末を楽しく使いながら、社会の変化に適応する力や友達同士で教え合う力などを身に付けられるような授業にしていきたいです。

２年１組　担任　古里　敦子さん